

第1回札幌開発建設部特定工事総合評価審査委員会 議事概要
 (幾春別川総合開発事業の内 新桂沢ダム堤体第1期工事)

開催日及び場所	平成27年11月13日(金) 15:00~17:00 札幌開発建設部 分庁舎A会議室
委員	○北海道大学大学院 公共政策学連携研究部 教授 泉 典洋 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 大規模河川構造物研究室 室長 佐々木 隆 北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 佐藤 靖彦 元 北海道土木技術会コンクリート研究委員会委員 山下 弘市 ○委員長 (五十音順)
議事次第 1 開会 2 札幌開発建設部長挨拶 3 札幌開発建設部特定工事総合評価審査委員会について (幾春別川総合開発事業の内 新桂沢ダム堤体建設第1期工事) (1) 委員会規則 (2) 委員紹介 (3) 委員長選出 4 委員長挨拶 5 議事 (1) 事業概要 (2) 技術提案における評価方法の設定及び採点方法について 6 閉会	

審 議 等	
審 議	札幌開発建設部の説明
<p>5 議事</p> <p>(1) 事業概要</p> <p>・転流工を兼ねて完成済みの取水放流設備の放流能力 70m³/s は、現在の桂沢ダムに対してどの流量に該当するのか。また、クレストゲート撤去時期についての考え方は。</p> <p>・基礎処理工の図中、右岸側のカーテングラウトが、部分的にパイロット孔だけとなっているのはなぜか。</p> <p>(2) 技術提案における評価方法の評定及び採点方法について</p> <p>・打設工程案では、旧堤体天端の上に薄くコンクリートを打設した状態で 2 回目の越冬としており、これでは旧堤体天端下流角から上方にクラックが入る。</p> <p>また、既設クレストゲートの周囲、門柱及び既設クレストゲートから伸びる導流壁等は複雑な形状であり、このまま新しいコンクリートを打設すると必ずクラックが入るがどう対策するのか。</p>	<p>・70m³/s は現在の桂沢ダムの計画放流量である。</p> <p>既設クレストゲートの撤去は、貯水池運用上最も水位が低くなる時期としており、以降、既往最大洪水が流入してもクレストゲート敷高を超えない空き容量を確保する運用を計画している。</p> <p>必要な空き容量は、現在の桂沢ダムの計画規模洪水よりも既往最大洪水(S56)の方が大きい。</p> <p>・パイロット孔の結果で改良の要否、改良範囲を判断する予定であるため、1 次孔以下の図示を除いている。</p> <p>・代表断面での温度応力解析の結果、許容歪み以内であり問題無いと判断していたが、解析条件等を再確認したい。</p> <p>既設クレストゲート周りの突起部は全て撤去する予定である。</p> <p>導流壁については撤去の方向で再検討したい。</p>

審 議 等	
審 議	札幌開発建設部の説明
<p>・これらの撤去範囲を示したうえで技術提案を求めるのか。</p> <p>また、付与条件次第で様々な技術提案が出されると考えられるが、それらをどう評価するのか。</p> <p>・温度応力対策に関しては、セメント量を減らし発熱を抑えるのが一番の対策であるが、コンクリートの配合を変える提案も受け付けるのか。</p> <p>・新旧コンクリートが一体となって働くために重要なのは「硬さ」が同程度であることである。新旧コンクリートのヤング係数は近似した値となっているか。</p> <p>・堤体コンクリート打設設備の道道への影響軽減の提案について、打設設備とは何を指し、どういう状態で通行止めが発生するのか。</p> <p>打設設備を変更する提案は受け付けるのか。</p> <p>・技術提案の評価ポイントで品質、安全性、実現性があるが、着眼点によっては様々な解釈が可能となる。事前にもう少し細かい評価ポイントを整理した上で提案を受付けるのがベターと考えられる。</p>	<p>・標準案の詳細な図面を公示し、撤去範囲を明確に示したうえで提案を受けたいと考えている。</p> <p>温度応力解析については、物性値を含む解析条件全般や解析モデルを詳細に公示し、各社が同レベルで解析できるようにすることで、横並びの評価が可能となるようにしたい。</p> <p>・外部、接合部、内部コンクリートなど全ての配合及び物性値を示し、提案を求める予定である。</p> <p>配合を変える提案は受け付けない。</p> <p>・道内で同じく同軸嵩上げを行った既往事例を参考に検討しており、新旧コンクリート共に20,000N/mm²前後で、近似した値となっている。</p> <p>・打設設備とはケーブルクレーンを指す。</p> <p>通行止めは設置・撤去時に発生し、運転時の通行止めはない。</p> <p>打設設備は任意仮設であり、変更する提案も受付可能である。コンクリートを打設する手段は任意として、コンクリート打設期間・休日などコンクリート打設条件を示す予定であり、仮設備の制約条件はないものとする。</p> <p>ただし、別途示す用地の制限等で配置可能な設備であることが条件となる。</p> <p>・予め細かい評価ポイントを整理したうえで提案を受けることとしたい。その上で、さらに技術対話を通じて内容を確認したい。</p>